

中島好一先生 : Arthritis & Rheumatism(2010)62:1265-1272

“酒は、RA患者にも百薬の長か??”

The Effect of Alcohol on Radiographic Progression in Rheumatoid Arthritis

【背景】疫学調査では、RA患者の発症リスクに、コーヒーやタバコが増悪因子であり、ワインなどのアルコールが抑制因子であることは報告されていましたが、今回スイスで、一旦発症したRA患者の、骨病変の進展に、酒が影響するのかについて検討が行われました。

【方法】4834名のRA患者を、Non-Drinker(n=1084)、Drinker(N=1824)にわけ、さらに、機械飲酒(n=1486)、毎日飲む(n=272)、へべれけに飲む(n=57)に分類し、その後の画像上の骨病変(ERO score)やQOL(HAC inits)について、経時的に観察されました。

【結果】Drinkerは、Non-Drinkerと比較して、喫煙者が多いにも関わらず、DAS28, HAQともに有意に低く、Erosion scoreも、有意に低値でした。画像上の骨病変;ERO scoreは、Non-Drinkerと比較すると、Heavy drinkerは、増悪進展の速度が速く、一方、daily drinkerやcase drinkerでは有意に低いことが、3年間の観察にて明らかになりました。性差については、女性ではDrinkerとNon-Drinker間での骨病変進展に差を認めませんでした。男性ではdrinkerの方が有意に進展抑制が認められました。HAQについては、アルコールの影響を認めませんでした。

【結論】今回、既に発症してしまっている、適度なアルコールはリウマチ骨病変の進展を抑制するなどという、またまた、酒飲みを元気付ける結果が報告されてしまいました。しかし、これらはずか3年間の経過観察であり、まだまだはっきりとしたEvidenceとは言いがたいと山崎聡士先生がきっぱりと発言されました。白黒はつきりするまで、関節に痛みのある患者さんに、お酒をすすめたりするのはやめましょう。(文責 阿比留)